

那須塩原駅周辺 まちづくりビジョン

7つの ビジョンプロジェクト

30年後の目指すべきまちづくりビジョン

基本コンセプト
住む人・来る人が共に拓き、育む
栃木県北の拠点

ようこそ
未来の
那須塩原

プロジェクト① 市民が愛し誇れるまち

プロジェクトの目的
市民にとっても、那須塩原を訪れた方にとっても、愛着が生まれ、「このまちに住みたい」と心から思える、次の世代に自信をもって残していく満足度の高いまちをつくる。

プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ
駅周辺の「まちへの愛着」「まちの誇り」等エリアに関する情報が発信している。
環境が整備されることにより、地域に対する「愛着」や「誇り」がより一層育まれる。
住民自ら「まちへの愛着」「まちの誇り」等エリアに関する情報を発信している。
駅周辺を目的地として訪れる人も増える。
駅周辺の住民が増える。
駅周辺の回遊性が高まる。
駅利用者の回遊性が高まる。
那須塩原駅周辺の対外的な認知度（魅力度）のアップ、那須塩原駅周辺を中心とした移住・定住者の増加にもつながっている。
人々が、日々の生活の中に「活気や賑わい」を感じる。
「安全や安心」「癒しやすさ」「住み心地の良さ」を感じる環境が整備されている。
ほかに人に自慢したくなるようなまちになっている。

プロジェクトの施策の方向

- 都市環境の充実
- 移住・定住施策の強化
- 那須塩原市・栃木県北の玄関口としてのブランド化

プロジェクト② 歴史・文化を感じるまち

プロジェクトの目的
開拓の歴史とそこに生まれた文化遺産を地域活性化のための貴重な地域資源として有効に活用するとともに、これまで受け継がれてきた歴史・文化に触れることにより、市民の心情面における一体感がより醸成されるまちをつくる。

プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ
駅を出発点として、文化財を巡る周辺交通機関の整備。
市民を中心に歴史や文化を活用したイベントの開催。
SNS等を通じて対外的にも那須塩原市の歴史や文化が広くPRされている。
市民の歴史や文化に対する関心や理解が深まる。
那須塩原市や那須野が原の開拓・発展の歴史、伝統や文化、それらを今に伝える地域に散りばめられた文化財などを誰でも日常的に「学ぶ」「知る」ことが出来る環境。
観光客だけでなく、市民も歴史や文化が、日々の暮らしの中に「感じる」ことができる。
那須塩原市や那須野が原の開拓・発展の歴史、伝統や文化、それらを今に伝える地域に散りばめられた文化財などを誰でも日常的に「学ぶ」「知る」ことが出来る環境。

プロジェクトの施策の方向

- 歴史や文化の継承（担い手づくり）
- 歴史・文化の共有に向けた教育、イベントの開催
- 文化財の積極的な活用

プロジェクト③ 個性を感じるまち

プロジェクトの目的
那須塩原駅から見える那須連山の眺望、星が輝く澄んだ夜空等を通して、那須塩原市や那須地域が持つ特有の魅力を感じることができるとともに、「観光」等の拠点として那須地域全体、栃木県北全体の魅力も感じることが出来るまちをつくる。

プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ
駅前には那須塩原市や那須エリアの観光地、特産物等をインフォメーションする施設等の整備。
駅を降りた瞬間から「那須らしさ」「那須らしさ」を感じられる空間に。
那須連山の山並み、星が輝く澄んだ夜空等の風景（自然物）を訪れた人を出迎える。
那須塩原駅を降りると、本市の「らしさ」をイメージさせるモニュメント（人工物）を設置。

プロジェクトの施策の方向

- 那須塩原市の魅力の再確認と付加価値
- 景観の維持・保全及び積極的な活用
- 二次交通網の充実・強化

プロジェクト④ 自然とテクノロジーが調和するまち

プロジェクトの目的
自然とテクノロジーが調和し、先端技術を活用した新たな働き方・多様なライフスタイルが実践されるとともに、ひと本来の生活に必要な「癒し」が得られるまちをつくる。

プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ
東京圏に本社を構える企業のサテライトオフィス等が駅周辺に定着している。
東京などへのアクセスの優位性が広く認知される。
駅周辺のデジタル環境の整備・強化。
多様な働き方が実践されている。
サテライトオフィス
ワークーション

プロジェクトの施策の方向

- デジタル環境の整備・充実
- サテライトオフィス・ワークーションに係る施策の充実
- 観光施策との連携

プロジェクト⑤ 新たな行政の在り方を示すまち

プロジェクトの目的
新たな時代に相応しい行政機能を有し、公共サービスの効率性や利便性の向上、災害対応力の強化を図るとともに、那須塩原市、栃木県北の玄関口としての象徴・ランドマークとして、人と人とのつながりを創り、そこから新たな価値や魅力が生まれるまちをつくる。

プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ
庁舎を核として、周辺エリアの道路網等のインフラストラクチャーの整備等、駅周辺のまちづくりが進む。
新たな庁舎は、「デジタル化の推進」「新たなリスク管理」等、時代の潮流を見据えた機能を備える。
本市のランドマーク施設としての「那須塩原市らしさ」や県北の玄関口に構える庁舎として「那須エリア」を感じる事ができる空間を有している。
庁舎そのものの利用価値・存在意義が高まり、市民にとってのアイデンティティを備えた、シンボル的な建物として、行政手続きだけでなく様々な利用目的で市民が訪れる場所となっている。
那須塩原駅周辺における人々の回遊性も高まり、駅周辺における新たな人の動きが生まれる。
更なる「賑わい」や「魅力」の創出、人や事業者の流入、土地利用の高度化等、まち（エリア）全体の活性化が図られている。
市内外からのアクセス性の向上、駅周辺への店舗等の増加。

プロジェクトの施策の方向

- 新庁舎及び駅前空間の整備
- 新庁舎周辺の道路網・インフラ環境の整備
- 民間活力の導入

オンライン手続き
会議
窓口

プロジェクト⑥ 時代に選ばれるまち

プロジェクトの目的
首都機能の地方分散、国のバックアップ機能の受け皿の候補地など、より大局的な見地から、栃木県北地域など広域的な拠点となるまちをつくる。

プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ
「首都圏とのアクセスの容易性」「災害リスクに対する高い安全性」といった那須塩原市が有する地域の優位性などから、市内への首都機能の一部移転が実現。
玄関口でもある那須塩原駅周辺を中心に、インフラストラクチャー等の整備とともに、気候変動への対策等、那須塩原市が全国に誇る取組を生かしたまちづくりが進んでいる。
本市を中心とする広域圏の連携強化や新たな広域圏の形成などが図られるとともに、圏域内のヒトやモノの交流・流通がより活発に行われるようになり、広域圏内における更なる一体感が創出されている。

プロジェクトの施策の方向

- 首都機能の地方分散等に向けた機運の醸成及び受け皿となる魅力の創出
- 広域圏における道路網の整備等、自治体間の連携強化
- 持続可能性の追求、環境政策等を通じた地域課題の解決

首都機能の一部移転が実現
東京

プロジェクト⑦ 人と共に成長するまち

プロジェクトの目的
様々な市民参画等のプロセスを通じて得られた人財が、那須塩原駅周辺のまちづくりの担い手として継続的に関わるとともに、市民がまちづくりへの関心を失うことなく継続的に担い手として参画する環境を整え、より高い次元で市民など多様な担い手との協働が実践されるまちをつくる。

プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ
市民だけではなく、自治会や市民団体、民間企業等まちづくりに関心のある様々な担い手が、那須塩原駅周辺のまちづくりに参画している。
まちづくりに関するネットワークが広がり、多種多様な「知見」と「視点」でまちづくりが進められている。
民間活力の導入など、民間企業との連携によるまちづくりが積極的に行われるようになっている。
市民の中に「市政への市民参画の素地が根付き、まちづくりの担い手が継続的に生まれている」。

プロジェクトの施策の方向

- 市民参画プロセスへの理解の深化と機運の醸成
- 市民参画プロセスの仕組みづくりや担い手づくり
- 市民、自治会、NPO法人、事業者等多様な担い手との連携強化

みんなでまちづくり